

かながわ経済新聞 [bizログ]

# KANAKKEI

県内ビジネス情報イッキ読み!

## Big Log

※本紙全てのコンテンツの無断転載・複写・転用を禁止いたします。

2021  
VOL.086 2月号

(発行) **KANAKKEI** かながわ経済新聞  
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3  
相模原商工会館 本館 1F  
(制作) 神奈川新聞社

会社成長の専門家  
りんくグループ

税務・会計・経営支援

0 ちょうどいい  
りんく

☎ 042-738-7891  
www.link-tax.com

「人財」でお困りなら

株式会社  
**mi** ミヨシ・ロジスティックス

042-779-6619 <http://miyoshi-log.co.jp/>

### 「自責」と「他責」

今回も前回の続きで「自責と他責」についてお話をしていきたいと思ひます。前回では「2:8」の法則や「2:6:2」の法則について触れました。そして、そこからいかにして「2割の成功者」になるのかまでの話をしました。それでは、具体的に何が必要なのでしょう。

答えがいくつもあるのかもしれませんが、私が考えるとても重要なことは、「自責と他責」という考え方の人は成功しているように思えます。

例えば、どんなジャンルでも、成功もしくは結果を出す人は、常に自分以外（他責）に対しての感謝や尊敬を忘れません。そういう人たちは仮に物事がうまくいかず、結果失敗した場合には自責の考え方が強いです。

失敗した要因を常に自分自身で受け入れることができ、しっかりと分析して、次の行動に移すことができるからこそ、成功する確率が高まり、やがて成功者と呼ばれるのだと思ひます。

逆に成功できない人の多くは、成功したときは「自分が頑張った」など、自責の考え方が強く、逆に失敗したときには他責の考え方が強いと思ひます。

例えば、環境や自分以外の人に失敗した理由を求めます。

人は失敗したときや成果を出せないときに、どう考え、どのように行動していくのがとても重要です。なぜなら人が物事を行っていくうえで、最初から成功するとは限らないからです。

失敗したときや、物事がうまく進められず、悩んでいるときにこそ他責ではなく自責の考えを強くし、一方で成功しているときこそ「自責より他責」の考えを強くした方が、人間力が高められると思ひます。



吉田英訓の  
**着眼大局 着手小局**  
～人と企業～

分かりやすい例を言えば、オリンピックで金メダルを獲得したアスリートです。インタビューで「自分はものすごく頑張りました」という人はあまりいません。むしろ、一流のアスリートの多くは「家族やコーチなど、多くの人に支えられ金メダルを取れました」と言っています。

確かに、「自責と他責」を実践すると、なかなかなでできないことはあります。しかし、この考え方を常に意識し、少しずつでも行動レベルに落とし込めたときには、いろいろな悩み事なども解消され、2割の成功者に近づけるのではないのでしょうか。

(ミヨシ・ロジスティックス代表取締役／近未来技術研究会会長)

かながわ経済新聞

2021. 2月号

吉田英訓の

連載記事が掲載されました。